

学生の読書に関する調査 — 属性別分析 —

森 忠繁¹⁾, 折原茂樹²⁾, 千家令子³⁾

A Survey on the Reading Habits of Students — Analysis by Attributes —

Tadashige MORI¹⁾, Shigeki ORIHARA²⁾, and Reiko SENGE³⁾

The reading habits of students were surveyed and analyzed by attributes such as sex, subjects of study, and year in the university.

The eight questions by sex, five questions by subjects of study, and seven questions by year in the university in total thirteen questions except two questions of duplication answers were recognized significant differences in the questionnaire on the reading habits.

More female students had read some books in the past one month were more than the male students. They were also more satisfied with their reading, and reading had a great influenced on their lives than those of the male students. More female students had bought the topic or popular books than the male students. The female students had more frequently used the library than the male students. With regard of subject of course, the lowest proportion of students who had read a book in the past one month was found in the Welfare Industry Subject.

The students of the fourth year students were the most characteristics. Analysis by year in the university showed that fourth year students had the highest rate of having read books in the past one month, but they were the least satisfied with their reading ,and They used most frequently the internet and the library.

Key words : , reading habit, students. Analysis by the attributes.

読書習慣, 学生, 属性別特徴

はじめに

読書は知識や情報の獲得の源であり、それにより感動を味わい、想像力、創造力、感性を豊かにし、表現することができる。文化庁の平成14年度および平成15年度「国語に関す

る世論調査」^{1),2)}によれば、読書の重要性や意義について国民の間でも十分認識されている。しかし、国民、特に若者の「読書離れ」が進行している^{3)~5)}ことが懸念されている。

「学生の読書に関する調査—世論調査との比較—」を既に報告した⁶⁾。1ヶ月間に本を

1) 近畿医療福祉大学 (Kinki Health Welfare University) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

2) 国士館大学文学部 (Kokushikan University) 〒154-8515 東京都世田谷区4-28-1

3) 近畿医療福祉大学 (Kinki Health Welfare University) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

「読まなかった」学生が39.2%で、2005年世論調査の学生の51.9%より少なく、本学の学生は世論調査より本を読む学生が多いことが分かったが、読書冊数において「4冊以上」読むのは少なかった。読書で「満足」した学生が87.9%もあり、人生観に影響を受けたことが「ある」学生は71.0%を占め、読書の影響が大きいことが示された。3ヶ月間に大学図書館を利用した学生は「0回」が22.6%、「6回以上」が20.8%で、最多は「1～2回」31.5%であった。他の図書館を利用したものは少なかった。

今回は同じ調査データで性、学科、学年の属性別に分析し、属性による特徴を把握したので報告する。

I 調査方法

2006年7月3日～7日の講義に出席していた学生1,463名（在籍学生数2,457名、出席率59.3%）を対象に、読売新聞社が2005年の読書週間に実施した世論調査⁷⁾と同じ質問11項目に図書館の利用に関する質問2項目を追加して、学生の読書に関する調査を無記名方式で実施するとともに、性別、学科、学年の属性を付記させた。

調査の回答者の内訳は、次のとおりである。

性別：男性66.0%、女性34.0%；

学科別：社会福祉学科38.1%、

介護福祉学科22.6%、

福祉産業学科27.0%、

福祉心理学科12.4%；

学年別：1年27.4%、2年26.4%、

3年23.9%、4年22.2%

集計、統計計算はSPSS－PC10版を用いた。

II 調査結果および考察

学生の属性別に調査の質問項目毎に結果を表に示した。

1) 1ヶ月に読んだ本の冊数(マンガ、コミック、雑誌を除く)

この1ヶ月間に本を「読まなかった」学生は男性42.4%、女性32.7%であった。学生が読んだ本は「1～2冊」が最も多く、男性39.7%、女性39.9%、次いで「3冊」が男性9.0%、女性10.6%、「4冊」が男・女性とも4.7%、「5冊以上」は男性10.3%、女性12.2%であった。女性より男性に「0冊」が有意に多かった。質問内容が少し異なるが、2004年の桃山学院大学学生の調査⁸⁾では、「ほとんど読まない」学生は29.9%で男女による差はほとんどなかったのと比較すると本調査の男子の「0冊」が高いことを示している。「読まなかった」学生は1985年の世論調査では10%であったのに対し、本調査では39.2%を示し⁶⁾、近年の学生の読書離れが著しく進行している。読書量でも「4冊以上」読んだ学生は40%から15.7%に減っている。

学科別の「読まなかった」学生の割合は福祉産業学科42.1%、介護福祉学科39.0%、社会福祉学科38.7%、福祉心理学科34.4%の順であった。「4冊以上」読んだ学生は社会福祉学科の17.1%が最も多く、次いで福祉心理学科の16.1%、福祉産業学科15.3%、介護福祉学科13.8%であった。学科別の読書に有意の差が認められた。

学年別の「読まなかった」学生は3年47.9%、2年45.3%と高く、1年37.6%、4年24.5%であった。「4冊以上」は4年22.2%が最も多く、1年10.8%、2年17.7%、3年12.9%であった。4年には卒論が課せられているので、「読まなかった」

学生が最も少なく、読書量も「4冊以上」が多くなっていると考えられる。大学生生活に慣れてきた2年、3年はアルバイトや遊びに忙しく、「読まなかった」学生が多く、読書量も少なくなったと考えられる。

2) 読んだ本の内容の満足度

この1ヶ月間に読んだ本の内容に「満足している」は女性(90.3%)が男性(86.4%)より有意に満足度が高かった。女性の方に感受性が強いと言える。読書離れが進行する中で、何冊読んだかという「量」よりも何を読んだかという「質」が重視されていると考えられる。

読んだ本の内容の満足度は学科別には有意差が認められなかったが、学年別で4年に「満足している」と「どちらかといえば満足している」が84.4%と低く、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」が15.6%と多かったために有意差が認められたと思われる。4年で卒業論文が課せられているので、自分の意志による読書ではなく他者から半ば強制された読書が含まれ、卒論テーマにピッタリの図書が見つからなかったためと考えられる。

3) 本を読まなかった理由(複数回答)

性別の本を読まなかった理由で多いのは「時間がなかった」(男性42.1%、女性62.7%)と「読みたい本がなかった」(男性42.4%、女性39.1%)であった。次いで多い理由は「本を読まなくても困らない」(男性16.3%、女性10.6%)、「本を読むのが嫌い」(男性12.1%、女性17.4%)であった。「時間がなかった」理由はアルバイトに時間がとられていることが考えられる。「読みたい本がない」はマンガ、コミックなどがブームになるほど若者の間に浸透しているが、他の本には興味を示さなくなっているのだろう。「本を読むのが嫌い」

は男性12.1%、女性17.4%と女性に多く、全般的に学生の読書離れが進行しているものと考えられる。インターネットの発達で、「本以外で知識や情報が得られる」ので、「本を読まなくても困らない」時代になっているのであろう。その傾向は男性に強く認められた。

福祉産業学科の学生は「本以外で知識や情報が得られる」、「本を読まなくても困らない」がともに15.8%を示した。「本を読むのが嫌い」は福祉心理学科の学生は8.1%と少なく、他の学科の学生は12.5~15.2%であった。

4年では、卒論が課せられているので、「本を読まなくても困らない」わけにはいかないで7.6%と低いが、インターネットの利用で「本以外で知識や情報が得られる」が13.9%と他の学年より多くなっている。

4) 1年前に比べて本代の増減

1年前に比べて本代は男女差が認められ、「変わらない」は女性37.7%が男性33.7%より多かった。「以前から本を買わない」は男性19.4%が女性12.2%より多かった。学生の活字離れは女性より男性に進行していた。

学科別には本代が「増えた」学生は福祉心理学科の31.7%が多く、福祉産業学科の23.8%が少なかった。「減った」学生は福祉心理学科27.7%が多く、社会福祉学科18.9%が少なかった。「以前から本を買わない」学生は福祉産業学科20.9%、社会福祉学科18.8%が多く、福祉心理学科8.9%、介護福祉学科13.1%が少なかった。福祉産業学科、社会福祉学科の学生に活字離れが浸透していると言えるだろう。

学年別では、「増えた」学生は4年34.6%が多く、2年21.7%が少なかったが、「減った」学生は1年25.6%、2年22.2%が多く、

3年22.0% 4年17.6%が少なかった。「以前から本を買わない」学生は2年18.8%、3年19.0%、1年16.0%、4年13.6%となっている。4年は卒論や就職活動で本を買った学生が多くなったものと推定される。

5) 書店々頭での選書の困難

書店々頭で本を選ぶのに困ったことの有無について、学科別および学年別には有意差が認められなかったが、男女別には有意差が認められた。「よくある」と「ときどきある」は女性67.4%で男性51.1%より多く、「全くない」が男性の20.1%に対し女性は7.3%と極端に少なかった。男性は買う本を予め決めて書店へ行くのが女性より多いのではないかと考えられる。

6) 話題、評判の本の購入

話題、評判の本の購入については学科別、学年別には有意差が認められず、男女別に有意差が認められた。話題、評判の本を「どちらかといえば買う」は女性36.0%が男性25.8%より多く、「買わない」は男性(30.5%)が多く女性(20.3%)に少なかった。女子学生は流行とか評判に興味があり、影響されることが多く、読んだ本を話題にしたり、本を貸し借りする友人がいる学生が多い⁸⁾と考えられる。

7) インターネットの通信販売の利用による本の購入

インターネットの通信販売の利用による本の購入に関して、性別、学科別には有意差が認められなかったが、学年別にのみ有意差が認められた。「買ったことがある」学生は4年(15.5%)に多く、1年(9.8%)、2年(7.8%)に少なかった。「買いたいとは思わない」学生は4年(55.7%)が他の学年より少なかった。4年になると卒論や就職活動にどうしても本を買わざるを得なくなり、インターネットの通信販売を利用するの

が増えるのだろう。ネット通信販売の売上の増加が著しく、特に若年層の著しい増加に社会情勢が背景にある^{10),11)}と考えられる。

8) インターネット情報のみで本を購入しない

必要な情報をインターネットで入手して本を購入せずに済ませることに関し、性別、学科別には有意差が認められず、学年別にのみ有意差が認められた。4年は「よくある」20.9%、「ときどきある」33.4%が他の学年より多く、「全くない」25.0%が他の学年と異なり少なかった。これも4年は卒論、就職活動などに必要な資料、情報をインターネットに依存し、本を購入せずに済ませていることがうかがえる。

9) 読書による人生観への影響

読書の重要性や意義を国民の間でも十分認識されている^{1),2)}。読書により考え方や人生観への影響は読書の「量」より読書の「質」が重視されていることを意味していると考えられる。このことについて性別、学科別に有意差が認められたが、学年別に有意差が認められなかった。影響を受けたことが「ある」は男性(64.8%)より女性(83.2%)に多かった。学科別では影響を受けたことが「ある」は福祉心理学科(82.6%)に多く、福祉産業学科(60.5%)が少なかった。

10) 読書分野(複数回答)

読みたい本の分野の第1位、第2位は属性に関係なく、「現代小説」と「推理・SF・冒険小説」であった。第3位は属性別に多少異なっていた。性別では、男性は「旅行・レジャー」、女性は「随筆・エッセー」、学科別では社会福祉学科と福祉産業学科が「旅行・レジャー」、介護福祉学科と福祉心理学科が「健康・医療・福祉」、学年別では1年が「健康・医療・福祉」と「旅行・レジャー」と同率3位、4年が「健

康・医療・福祉」、2年と3年は「旅行・レジャー」であった。第3位の読書分野で属性の特徴がよく表されていた。

11) 大学図書館および大学以外の図書館の利用

3ヶ月間の大学図書館の利用回数は属性別に有意差が認められた。性別では女性は「0回」が男性より少なく、「6回以上」が男性より有意に多かった。学科別では、「0回」は福祉心理学科31.1%、福祉産業学科25.8%、社会福祉学科19.6%、介護福祉学科19.2%の順であった。「6回以上」の利用は介護福祉学科17.1%、社会福祉学科26.2%、福祉産業学科19.1%、福祉心理学科14.4%であった。介護福祉学科の学生は比較的良好に大学図書館を利用していた。学年別では、「0回」は4年が15.0%で最も少なく、「6回以上」の利用は4年が23.4%、2年が22.8%、3年が22.5%、1年が15.9%の順であった。

大学以外の図書館の利用は、性別には有意差が認められず、学科別、学年別に有意差が認められた。学科別では「利用しない」は福祉心理学科が81.0%で最も多く、他の学科では72.8~77.2%であった。学年別では「利用しない」は1年が84.0%で最も多く、次いで3年76.2%、2年74.3%で、4年が最も少なく64.3%であった。4年は大学図書館だけでなく、卒論の参考文献の不足を補うのに大学以外の図書館を利用したものと思われる。

12) 文字・活字文化振興法の効果

文字・活字文化の振興を図るための「文字・活字文化振興法」に関して、性別のみに有意差が認められた。「わからない」は女性が47.1%と男性の33.2%より多かった。学生の政治、社会現象への関心は薄く、女性は特に無関心な学生が多いと思われる。

まとめ

「学生の読書に関する調査」を性、学科、学年などの属性別に分析して、読書に関しての属性の特徴を把握した。複数回答以外の質問11項目中8項目に男女差が認められ、学科別には5項目、学年別には7項目に有意差が認められた。

1) 性別

1ヶ月間に本を読まなかったのは男性に多かった。読んだ本の満足度は女性に高く、人生観への影響も大きかった。本を読まなかった最大の理由は「時間がなかった」であるが、女性が男性より多かった。1年前に比べて本代の増減は、男女の3分の1が変わらないが、「以前から本を買わない」のは女性より男性に多かった。「書店店頭で選書が困難」、「話題、評判の本を購入」は女性が多かった。インターネットは42.8%の男女が利用している。女性は大学図書館、大学以外の図書館を男性よりよく利用している。文字・活字文化振興法に関して、女性は無関心が多かった。

2) 学科別

1ヶ月間に本を読まなかったのは福祉産業学科学生に多く、福祉心理学科学生に少なかった。1年前に比べて本代が増えた学生、読書により人生への影響を受けた学生は、福祉心理学科に多く、福祉産業学科が最も少なかった。大学およびその他の図書館を利用しなかった学生は福祉心理学科の学生に多かった。

3) 学年別

4年の学生は特異的で、1ヶ月間に本を読まなかった学生は最も少なく、読んだ本の満足度も最も低かった。インターネットを利用する学生も4年に多く、通信販売による本の購入、本を買わずに情報をイン

ターネットに依存していた。4年の学生は大学およびその他の図書館の利用回数も他の学年の学生より多かった。

- 報告、'04子どもの読書と学校図書館の現状、学校図書館、699号、12-13、2004
- 6) 森 忠繁、千家令子、堂田いつみ：学生の読書に関する調査—世論調査との比較—、近畿福祉大学紀要、7 (2) : 151-158、2006
- 7) 読売新聞社：読書週間本社世論調査、読売新聞、2005年10月2日
- 8) 戸田悦子：読書行動における集団とコミュニケーションの作用—中学生時代の友人関係から見る"読書コミュニティ"—、2005年度桃山学院大学原田ゼミ報告書、2005
- 9) 大学生協連読書調査委員会編：大学生の読書生活、大学生協同組合連合会、1988
- 10) 読売新聞社：情報接触と接触と読書の関係、読売 AD リポート、6 (10, 11)、42-45、2004
- 11) 出版科学研究所：2003出版指標年報告、全国出版協会、2003

文 献

- 1) 文化庁：平成14年度「国語に関する世論調査」報告書、独立行政法人国立印刷局、東京、2003
- 2) 文化庁：平成15年度「国語に関する世論調査」報告書、独立行政法人国立印刷局、東京、2004
- 3) 文化審議会：読書離れ進む、読書活動小委員会の意見のめとめ、
<http://www.gks.co.jp/y.2001/>
- 4) 毎日新聞社、全国学校図書館協会：第49回読書調査 (2003)、
<http://www.j-sla.or.jp/oshirase/kkka.html>
- 5) 全国 SLA 研究・調査部：第50回読売調査

表 性別・学科別・学年別 読書調査の結果 (%)

問1 1ヶ月間に読んだ本の冊数

	性別		学 科				学 年				計
	男	女	社会福祉	介護福祉	福祉産業	福祉心理	1	2	3	4	
0冊	42.4	32.7	38.7	39.0	42.1	34.4	37.6	45.3	47.9	24.5	39.2
1	26.0	22.2	22.4	19.2	18.1	23.9	30.3	18.2	15.8	17.0	20.7
2	13.7	17.7	14.3	16.8	14.0	16.1	12.5	12.8	14.0	21.7	15.0
3	9.0	10.6	7.6	11.3	10.5	9.4	8.8	6.0	9.5	14.6	9.5
4	4.7	4.7	4.2	3.4	6.4	5.6	3.8	3.9	4.6	7.1	4.7
5	4.0	7.3	4.2	6.1	4.3	8.3	3.0	3.6	4.3	10.5	5.2
6	6.3	4.9	8.7	4.3	4.6	2.2	4.0	10.2	4.0	4.6	5.8
n	957	492	553	328	392	180	399	384	349	323	1455

$X^2=21.083, df=6, p=0.02$

$X^2=34.165, df=18, p=0.012$

$X^2=126.967, df=18, p=0.000$

問2 読んだ本の内容の満足度

満足している	45.5	40.6	42.7	42.4	47.6	41.0	44.2	50.0	46.4	35.4	43.6
どちらかといえば満足している	40.9	49.7	45.4	43.3	40.9	48.7	45.0	39.9	42.5	49.0	44.4
どちらかといえば満足していない	9.6	8.5	9.2	8.9	9.3	9.4	8.0	9.1	6.6	11.9	9.1
満足していない	4.0	7.9	2.7	5.4	2.2	0.9	2.8	1.0	4.4	3.7	2.9
n	550	330	337	203	225	117	251	208	181	243	883

$X^2=10.431, df=3, p=0.01$

$X^2=8.838, df=9, p=0.25$

$X^2=16.668, df=9, p=0.005$

学生の読書に関する調査— 属性別分析 —

問3 本を読まなかった理由（複数回答）

	性別		学 科				学 年				計
	男	女	社会福祉	介護福祉	福祉産業	福祉心理	1	2	3	4	
時間がなかった	42.1	62.7	41.6	64.1	43.6	48.4	48.0	51.1	49.7	36.7	47.7
読みたい本がなかった	42.4	39.1	43.9	35.9	42.4	43.5	42.7	38.5	39.5	5.1	41.4
本以外で知識や情報が得られる	10.3	5.0	6.5	3.9	15.8	8.1	9.3	5.2	9.6	13.9	8.7
本を読まなくても困らない	16.3	10.6	13.6	12.5	15.8	19.3	10.0	18.4	17.4	7.6	14.5
本を読むのが嫌い	12.1	17.4	15.0	12.5	15.2	8.1	15.3	14.9	9.0	17.7	13.6
本の値段が高い	8.1	9.9	9.8	7.8	9.7	3.2	8.0	10.3	7.8	7.6	8.6
本にお金をかけたくない	10.6	8.1	11.2	8.6	11.5	1.6	12.0	10.3	10.2	3.8	9.1
健康上の理由で読めない	1.5	1.9	2.3	1.6	0.6	1.6	0.7	2.3	2.4	0	2.3
その他	5.2	6.8	6.5	7.8	2.4	6.5	3.3	6.3	7.2	5.1	5.6
n	406	161	214	128	165	62	150	174	167	79	572

問4 1年前に比べて本代の増減

非常に増えた	5.2	5.5	3.8	7.3	5.4	6.7	4.0	4.7	6.1	7.1	5.4
少し増えた	20.7	21.1	21.9	19.9	18.4	25.0	19.5	17.0	20.5	27.5	20.8
変わらない	33.7	37.7	36.5	36.7	33.4	31.7	35.0	37.3	33.4	34.3	35.1
少し減った	11.7	13.8	9.9	15.3	12.5	13.3	11.8	12.5	13.5	11.4	12.3
非常に減った	9.2	10.1	9.0	7.6	9.4	14.4	13.8	9.7	7.5	6.2	9.5
以前から本を買わない	19.4	12.2	18.8	13.1	20.9	8.9	16.0	18.8	19.0	13.6	16.9
n	955	493	553	327	392	180	400	383	347	324	1454

$X^2=12.535, df=5, p=0.028$

$X^2=35.526, df=15, p=0.002$

$X^2=32.337, df=15, p=0.006$

問5 書店店頭での選書の困難

よくある	19.5	26.4	22.1	22.5	21.7	21.1	21.0	20.3	20.7	26.2	21.9
ときどきある	31.6	41.0	35.8	36.8	30.6	37.2	37.5	33.1	34.2	34.0	34.8
あまりない	28.8	25.4	26.4	30.1	26.8	27.8	27.0	27.3	29.0	27.2	27.6
全くない	20.1	7.3	15.7	10.6	20.9	13.9	14.5	19.3	16.1	12.7	15.7
n	957	493	553	329	392	180	400	384	348	324	1456

$X^2=50.365, df=3, p=0.000$

$X^2=16.553, df=9, p=0.056$

$X^2=10.635, df=9, p=0.302$

問6 話題、評判の本の購入

買う	7.5	7.5	7.3	7.9	6.6	10.1	7.5	7.1	8.3	7.4	7.6
どちらかといえば買う	25.8	36.0	26.3	31.9	30.1	31.3	28.8	29.8	28.7	29.4	29.2
どちらかといえば買わない	36.2	36.2	40.3	35.9	31.1	34.6	41.4	37.2	31.5	33.4	36.1
買わない	30.5	20.3	26.1	24.3	32.1	24.0	22.3	25.9	31.5	29.7	39.4
n	955	492	551	329	392	179	399	382	349	394	1453

$X^2=23.965, df=3, p=0.000$

$X^2=15.722, df=9, p=0.073$

$X^2=13.244, df=9, p=0.152$

問7 インターネットの通信販売の利用による本の購入

	性別		学 科				学 年				計
	男	女	社会福祉	介護福祉	福祉産業	福祉心理	1	2	3	4	
買ったことがある	11.7	8.3	9.1	12.7	10.2	11.7	9.8	7.8	10.1	15.5	10.6
買ったことがないが利用してみたい	26.6	29.8	27.7	26.4	25.0	35.8	26.8	26.3	29.3	28.8	27.7
買いたいとは思わない	61.7	61.9	63.2	60.9	64.8	52.8	63.5	65.9	60.6	55.7	61.7
n	956	493	552	330	392	179	400	384	348	323	1455

X²=4.8000、df=2、p=0.091

X²=11.667、df=6、p=0.070

X²=14.553、df=6、p=0.024

問8 インターネット情報のみで本を購入しない

よくある	16.7	17.7	16.4	17.0	18.8	15.6	15.5	16.8	15.5	20.9	17.0
ときどきある	26.3	25.2	23.0	29.1	26.7	25.7	22.8	22.3	26.1	33.4	25.8
あまりない	21.9	27.0	23.7	20.9	23.1	29.6	28.1	22.0	22.7	20.6	23.5
全くない	35.1	30.1	37.0	33.0	31.4	29.1	33.6	39.0	35.6	25.0	33.6
n	951	492	549	330	389	179	399	382	348	320	1449

X²=6.444、df=3、p=0.092

X²=11.630、df=9、p=0.235

X²=30.287、df=9、p=0.000

問9 読書による人生観への影響

ある	64.8	83.2	72.0	75.9	60.5	82.6	72.2	71.1	69.2	71.2	71.0
ない	35.2	16.8	28.0	24.1	39.5	17.4	27.8	28.9	30.8	28.8	29.0
n	944	483	543	323	387	178	399	380	341	313	1433

X²=52.645、df=1、p=0.000

X²=10.552、df=3、p=0.000

X²=0.8073、df=3、p=0.20

問10 読書分野（複数回答）

現代小説	26.6	38.8	27.9	34.8	27.7	19.6	33.6	34.1	30.7	23.5	30.8
古典文学	2.2	1.6	1.1	3.0	2.1	1.7	1.0	2.3	3.4	1.5	2.1
歴史小説・時代小説	12.9	6.5	11.2	7.9	12.6	10.0	12.3	11.5	10.0	8.4	10.7
推理・SF・冒険小説	35.1	28.0	34.6	28.0	34.6	29.4	31.1	35.2	34.4	29.4	32.6
ノンフィクション・伝記	12.5	22.0	17.2	16.8	13.3	14.4	15.8	16.4	12.6	18.0	15.7
随筆・エッセー	10.3	22.4	16.5	16.2	10.8	12.2	13.8	14.1	13.8	15.8	14.3
考古学・歴史	3.2	0.8	2.0	2.4	3.6	1.1	1.5	3.4	1.7	3.1	2.4
哲学・思想・法律	3.8	1.4	2.0	4.0	1.5	7.2	2.8	2.1	4.0	3.1	3.0
政治・法律	1.5	0.6	0.9	0.3	1.5	2.8	1.3	0.3	1.4	1.9	1.2
経済・ビジネス	3.2	0.4	1.6	1.8	4.4	0.6	1.0	0.8	3.2	4.6	2.3
自然科学	2.6	0.6	1.4	1.8	3.1	1.1	1.8	1.8	1.4	2.8	1.9
健康・医療・福祉	12.5	21.5	15.8	22.0	10.3	15.0	17.0	10.2	14.6	21.1	15.5
教育・育児	4.1	4.9	5.3	2.4	3.8	6.1	3.0	4.9	3.7	5.9	4.3
料理・食生活	8.0	17.7	12.0	11.3	9.5	12.8	11.5	12.0	9.2	12.1	11.2
旅行・レジャー	22.5	12.2	21.7	15.2	21.8	11.7	17.0	20.3	18.3	20.4	19.0
パソコン・情報技術	4.0	0.6	2.9	1.8	3.6	2.8	1.8	2.3	5.4	2.5	2.8
その他	9.3	5.9	7.2	9.1	8.5	9.4	8.8	7.6	8.0	8.7	8.2
n	954	492	552	328	390	180	399	384	349	323	1455

学生の読書に関する調査— 属性別分析 —

問11 大学図書館の利用

	性別		学 科				学 年				計
	男	女	社会福祉	介護福祉	福祉産業	福祉心理	1	2	3	4	
0回	26.4	15.3	19.6	19.2	25.8	31.1	24.4	23.5	26.8	15.0	22.6
1～2回	31.5	31.2	29.0	33.2	31.7	35.8	36.7	26.4	34.0	28.3	31.5
3～5回	25.1	25.5	25.2	30.5	23.5	18.9	23.1	27.9	16.7	33.3	25.1
6～10回	8.6	14.7	12.2	10.4	10.3	7.2	10.6	11.8	8.4	12.8	10.7
11回以上	8.4	13.3	14.0	6.7	8.8	7.2	5.3	11.0	14.1	10.6	10.1
n	953	490	551	328	388	180	398	383	347	321	1449

X²=36.629, df=1, p=0.000

X²=37.983, df=1, p=0.000

X²=58.513, df=12, p=0.000

問12 大学以外の図書館利用

0回	76.7	72.4	72.8	73.9	77.2	81.0	84.0	74.3	76.2	64.3	75.2
1～2回	13.9	16.1	14.3	16.4	15.6	10.6	12.3	10.7	14.2	22.1	14.7
3～5回	7.0	6.5	8.4	6.1	5.6	5.0	3.5	8.9	5.5	9.6	6.8
6～10回	1.4	3.9	3.7	2.1	0.3	2.2	0.3	4.5	2.3	1.9	2.2
11回以上	1.1	1.2	0.9	1.5	1.3	1.1	0	1.6	1.7	1.6	1.2
n	949	492	547	329	390	179	399	382	344	322	1447

X²=11.075, df=1, p=0.026

X²=21.075, df=12, p=0.049

X²=64.787, df=12, p=0.000

問13 文字・活字文化振興法の効果

期待している	14.1	6.5	14.0	10.0	8.7	13.1	12.8	12.3	11.0	9.7	11.5
どちらかといえば期待している	21.3	21.4	23.0	20.7	22.6	14.2	25.4	20.7	15.7	23.4	21.4
どちらかといえば期待していない	11.4	12.0	11.8	12.2	10.5	12.5	9.8	12.0	11.6	13.4	11.6
期待していない	20.1	12.9	14.6	17.6	20.0	22.2	14.3	17.8	18.8	20.2	17.6
わからない	33.2	47.1	36.6	39.5	38.2	38.1	37.7	37.2	42.9	33.3	37.8
n	950	546	549	329	390	176	398	382	345	547	1446

X²=42.522, df=1, p=0.000

X²=19.148, df=12, p=0.085

X²=20.953, df=12, p=0.051